

ありのままの自然 守り続ける

岡崎・小呂湿地 県天然記念物に

岡崎市小呂町の小呂湿地が今月、県登録文化財の天然記念物に認定された。湿地の保全と研究をする市民ボランティアや高校生らは「箔が付くことで、市民に広く知れ渡り、大切にしてもらえれば」と期待している。

(杉山果奈美)



渡辺教授らの指導でサギソウの生態を研究する生徒。いずれも岡崎市小呂町の小呂湿地で



小呂湿地で見られるハッチョウトンボ

小呂湿地は、標高一六〇〜一七〇分の尾根の谷間にある一万四千平方メートルほどの湧水湿地。日本一小さいトンボとして知られる「ハッチョウトンボ」や、小ぶりの花がかわいらしい食虫植物「ムラサキミミカキグサ」など、貴重な動植物が多く見られる。私有地のため、これまでは積極的にPRしてこなかった。

今回、土地の所有者の許可をもらい、保護規制の強い指定文化財ではなく、緩やかに守っていく登録文化財として申請。七月の県文化財保護審議会を経て、今月四日に登録された。市は認定を受けて今後、案内看板やパンフレットをつくる予定。

湿地では、「おかざき湿地保護の会」の会員が十五年ほど前から、遊歩道の整備や獣害対策に取り組んでいる。本年度からは、近くの岡崎北高校理科の有志生徒が会の活動を手伝った。愛知教育大の渡辺幹男教授(左)は植物分類学の分野で野生のサギソウの生態を調査したりと、徐々に保全の輪が広がっている。

同高一年の宮代映美さん(右)は「保護されるべき場所だと認められてうれしい。植物や虫のありのままの姿が見られるのが魅力なので、より多くの人に知ってもらえるように、もっと活動を頑張りたい」と話した。